

(様式 2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 2013 年 8 月 9 日

所属：工学資源学部地球資源学科

学年 4 年次

氏名：氏原宏

研修先大学・機関名等 (国)：フィリピン大学国立地質学研究所, パラワン州立大学 (フィリピン)

在籍身分：

渡航年月日：2013 年 7 月 19 日

帰国年月日：2013 年 8 月 3 日

○研修先での学習内容等

希土類元素がどこにどの元素が濃集しているのか調査するために、フィリピンパラワン島北部に位置するカポアス山およびその付近の地域に産する花崗岩の地質調査を行った。主に花崗岩の露頭や砂浜の砂から分析材料としてサンプルを採取した。また 7 月 30 日にはパラワン州立大学で岩石学, 鉱床学の研究発表を、8 月 2 日はフィリピン大学で大学院生の研究発表を聴講した。

○研修期間の生活面について

調査は午前 8 時頃から調査を始め、調査地域まで車や船で移動をし、野外調査やサンプル採取を主にし、午後 4 時頃には終了した。調査終了後、自分が滞在するホテルに戻り、サンプルの整理やデータ整理を行った。

○研修期間全般にわたる感想

地質調査をする時、日本人は私一人で現地の方と英語で話さなければならない環境で 16 日間過ごしました。自分の意見や考えを日本語以外の言語で相手に的確に理解させることは、非常に困難であることを痛感しました。今回の研修では英語は他人とコミュニケーションをするための道具であり、今後英語でのコミュニケーション能力を上げる努力をしなければならないと感じました。また、日本では経験できないフィリピンの文化や風習を学べることができ、よい経験になりました。

○今後の勉学計画

調査地域から採取したサンプルからどのような希土類元素がどこに濃集しているのか室内調査をし、明らかにする。またこれらは将来レアアース鉱床として有望なものであるのか分析結果から判断する。

(様式 2)



1. 野外調査の様子



2. カポアス山周辺の海岸に露出する花崗岩